本と人生 ~素粒子から宇宙に至るまで~



井田茂(Shigeru Ida)

東京工業大学 教授 国際先駆研究機構地球生命研究所

学歴

1984年 京都大学理学部物理系 卒業 1989年 東京大学理学系研究科地球物理学専攻 博士課程修了

職歴

1990年 東京大学教養学部 助手

1993年 東京工業大学理学部 助教授

1998年 東京工業大学大学院理工学研究科 助教授

2006年 東京工業大学大学院理工学研究科 教授

2013年 東京工業大学地球生命研究所 教授

2022年 東京工業大学国際先駆研究機構地球生命研究所 教授

「地球と生命の起源」を探る東京工業大学地球生命研究所 (Earth-Life Science Institute: ELSI)。この研究所の第一線で活躍される井田先生は数多くの本を執筆されています。今回は「本との関わり」をテーマに、井田先生の生き方や信念を紐解いていきます。

ひたすら読んで出会った二冊

-まず、今回の本に出会った経緯を教えてください。

小学生ぐらいから本を読むのが好きで、児童館や図書館の子供向けコーナーに行き、棚ごと片っ端から読んでいって、小学生のうちに近くの児童館や図書館の児童図書コーナーの本はほとんど読んでしまいました。大学でも本好きは変わらず、様々な本を読む中で『邪宗門』と『フラニーとズーイー』に出会いました。

-- それぞれの本を好きになったきっかけは?

『邪宗門』は生協の購買で見かけ、高橋和 巳は以前から名前を聞いていたので買って、 食後に生協食堂で何の気なしに読み始めたので すが、止まらなくなっちゃって、午後の授業する。 すっぽかして読んでいたのはよく覚えています。 一方で『フラニーとズーイー』は気になっての 度も読み返してしまうような本です。最初なして (主人公に対して)いい歳してこんな奴いため 嫌だろうなという感じなのですが、でも何かる部分があったりして何度も読んでしまうんです。

-どういうところに惹かれたのでしょうか?

二冊とも主題ではありませんが宗教が絡んだ話で、宗教と人の関わりとか、人々の営みとか、そういう部分に惹かれたのかもしれませんね。 宇宙関係の研究者にはよくあることですが、僕

本の紹介

- 高橋和巳『邪宗門』
- -J·D·サリンジャー『フラニーとズーイー』

は観察や実験には興味がなくて部屋に閉じこ もって本を読むことが好きなんです。この世界 の仕組みを知りたいとか、自分がなぜここに存 在しているか知りたいとか、それは宗教ではな くこの宇宙の理が知りたいというところに興味 があります。また、この『邪宗門』だとか、栗 本薫の『グイン・サーガ』のような、主人公の 主観で語るのではなく沢山の人たちの思いが重 なる物語は好きです。これはあまり専門につな がってはいないと思いますが、科学を取り巻く 人々の物語にも興味があります。自分も系外惑 星の発見に至るまでの半世紀の物語を本に何十 ページもかけて書きました。多くの研究者が絡 まって様々な発見があって科学の流れが変わっ ていく時には、それを取り巻く研究者の物語が 一緒になっているので、そういったところに魅 力を感じています。

出会いを増やす

-- これらの本を今回紹介されたのは、東工大生に薦めるためでしょうか?

いえいえ。薦めているつもりは全くなくて、この二冊も他の人に合うかどうかは全然わかりません。人それぞれに本なり音楽なり映画なり合うものがあるんだろうと思います。今なら別に本に限らなくても、YouTubeやNetflixだっていいわけで。そういった色々な物に目を向けて出会ってみたらいいんじゃないでしょうか。



-先生は多くの本を書かれていますが、本を沢山読んだことが執筆につながっているのでしょうか?

どうなんでしょう。子供の頃や中学生の頃は 作文が嫌いでした。後から考えると、色んな本 を読んで色んなインプットがあったおかげで、 いざ書くとなった際に書けたのかもしれません。 それは何を読んだというよりは沢山の量を読ん だからだと思います。

-本を書く上でのモチベーションは?

自分の中で何か整理し切れない部分を自分なりに整理したいというのが一番大きなモチベーションです。人に読んでもらうというよりは自分の中のわだかまりを少し整理して、それに興味を持って読んでくれる人がついでに居ればいいなというくらいです。実際に中学生や高校生のときに僕の書いた文章を目にしたという人数でいいから自分の考えを伝えたいという思いは実現したのかなと思っています。

-先生の本には学問分野の歴史や科学者についても取り上げていますが、それは意識されていますか?

意識しているというよりも、自分がそういうものを知りたいと思っているからだと思います。

学問そのものの面白さはもちろんあるけれども、 それを取り巻いている人たちの営みにも大きな 魅力があるので、自分が本を書く上でそういう 部分もなるべく出したいなと考えています。

面白いことを突き詰めていく

-物理の道に進んだきっかけは?

様々な本を読んでいく中で宇宙の理を知りたいという欲求は以前から醸成されていました。そして高校三年生の秋になったころ、京都大学の物理の先生の「素粒子論と天文学・宇宙物理学を融合して、宇宙の最初を解き明かす学問が今まさに始まろうとしているんだ」といった素粒子論的宇宙論に関する1ページほどの紹介文を読み、「これだ」と決めました。

- 系外惑星や生命の起源を研究し始めた理由は?

最初からこれらの研究をやろうと思っていた 訳ではありません。その場その場で面白そうな ことをやった結果です。生物学をやるなんて 10年前だったらもう想像していなかった。何 か自分が切り込めるようなアングルはないのか なと探すことが楽しくて。面白そうな方向に 行った結果ちょっとずつずれていき、今の研究 に至ります。

-新たな分野に飛び込んだ際、どのようなときに困難を感じますか?

その分野に対して、自分なりのアングルで深く切り込めないときです。新しい分野に飛び込むとき、その分野の専門家が既にいるので、表層的なところをつついたところで「素人が何言っているんだ」となる。他の人が持っていないような視点で切り込めないと楽しくないので、その時は退却します。

東工大生へのメッセージ

- 東工大生へのメッセージをお願いします。

東工大らしさというか、東工大の個性を大切にしたらいいと思います。昔は大学ごとに個性があったけど、最近はどこの大学に行っても雰囲気が似てきちゃっていますよね。それはいいことかもしれないけど、東工大生の個性をもっと持っていいのかなという気がします。

- 先生から見た東工大生のカラーは?

肌で感じてきたことなので言語化しにくいんだけど、卒が「ある」ことだと思います。別の大学だと何でも卒なくこなす学生が多いですが、破天荒な人がいない。東工大生は卒がある分、小さくまとまらないところが強みだと思います。ですので、別に卒なく何でもこなすじゃなくてもいいんじゃないでしょうか。



インタビュアー&編集

福井 雄翔(工学院情報通信系学士課程4年)、 田村 笙(理学院地球惑星科学系修士課程1年) 以上、図書館サポーター